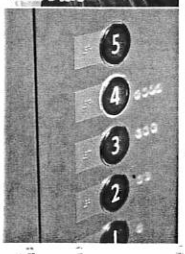
外観

居室の様子



◀エレベーターのボタンでも点字のわからない入居者が利用しやすくするための工夫が

様々なコミュニケーションの記憶を蘇らしてのすまいるのミーティング

棚瀬さん

中本さん

山崎さん

# 盲ろう者向けグループホーム ミッキーハウス 開所から4カ月 大阪市

## 利用者の願いをもとに暮らしをつくる「いろいろな人との話ができ、生活リズムが作れる」

特定非営利活動法人視聴覚二重障害者福祉センターすまいる（門川紳一郎理事長）が運営する、日本初の盲ろう者向けグループホーム「すまいるレジデンス for the DeafBlind（愛称、ミッキーハウス。定員10人）が3月に開所して早4カ月。その様子を取材してきました。

### 盲ろう者自身にとって暮らしやすい場に

5階建てのグループホームは元駐車場だった大阪市の土地を借り、総工費1億4千万円をかけて新築しました。24時間、スタッフ10人が交代して常駐し、家事をはじめとした日常生活ができるようサポートします。全10室の完全個室（7・58～8・05㎡）。朝昼晩の食事付（実費）です。7月6日現在、20代～60代までの7人が入居しており、2人が入居申請中です。入居者7人のうち6人が点字もわかります。

ホームでは、弱視者が色のコントラストで各階を識別できるよう床やドアの色をオレンジや黄緑にしたり、男女のトイレが手で触れてわかるよう男女のマークを立体的に表示する等、盲ろう者が自分で情報を得られるよう環境の整備に工夫が施されています。

入居者は日中、グループホームから徒歩3分の場所にある同法人の就労継続支援B型事業所に通って、自主製品の製作、パソコン・料理・お花といった生涯学習、和太鼓クラブなどに取り組んでいます。利用者の親たちは自分の亡き後の我が子の将来を心配していましたが、この開所で自立できるようになり、安堵しています。

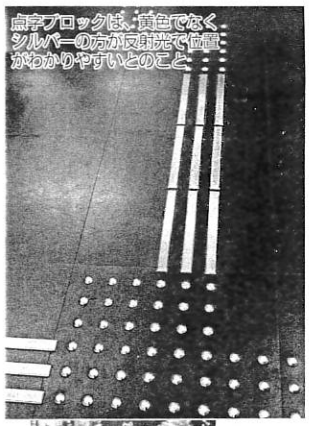
門川紳一郎理事長は自宅で昨年4月から盲導犬と同居しています。入店を拒否されることもあり、その都度、理解を求めています。グループホームでも盲導犬との同居は可能です

### 自らの要望が出せ、自立につなげる支援を

すまいるの事務局長で、自身ろう者の石塚由美子さんは、盲ろう者が自ら要望を訴えて自立できるよう、背中を押すようにして支援します。時には仲間同士が点字を教え合う様子にもあえて手を出さず、優しく見守ります。石塚さんはこの支援を縄跳びに例えます。

「いきなり縄跳びに入ろうとすると、タイミングが合わなくて縄が身体に絡むことがありますね。でも、リズムを知ることで、縄跳びに加われるでしょう。そのリズムがつかめるよう助けをしているんです」。

石塚さんは、グループホーム開所後、環境の整備については利用者の声を聞いて初めて分かったこともあるといいます。例えば、照明のスイッチはオンオフ1つになったものではなく、オンとオフを分けたスイッチの方が電灯がついているかどうかがわかりやすいこと、どこに手すりを付けたらよいかは利用者によってさまざまなので相談して決めた方がよいことなど。また、共用部分の手すりなどは全員の相談で決めるようにしています。


点字ブロックは、黄色でなくシルバーの方が反射光で位置がわかりやすいとのこと

盲ろう者への様々な支援の必要性を訴える、すまいるの石塚事務局長

### 盲ろう者の実態に即した制度の改善を

さらに、盲ろう者がヘルパーを利用する場合、触手話等による食べ物の状況説明等から、定められた利用時間内に食事が終わらないため、盲ろう者の実態に即した制度に改善する必要があると訴えます。

盲ろう者は全国で1万4000人はいるとされていますが、ホームの定員は10人のみです。石塚さんは「すまいるの実践をモデルにして、全国各地に盲ろう者の施設が広がってほしいですね。そしてグループホームとともに生活介護施設等にも、受け入れ条件を整え、盲ろう者が身近なところで安心してサービスが利用できるようになってほしい」ということを強く願っています。また、石塚さんは「盲ろう者にとって優しい街は全ての人にとって優しい街になれると思うんです」とも語りました。

### 利用者3人にインタビューしました

3人の顔写真は上部に掲載

**全盲の棚瀬恒二さん(65)**

3月14日に入居するまでは三重県に住んでいた。1歳の時に肺炎を患い、耳が聞こえなくなった。小学1年のときに三重県立聾学校に入学。15歳のときに目が見えなくなったため中学3年で中退。いま、大阪市内に外出し、電気屋めぐりをすることや仲間との語らいを楽しんでいる。現在、パソコンのメールも楽しみ（ピンディズで操作）、今後、ネットサーフィンができるのを楽しみにしている。

**中本謙次さん（64）**

入居前は大阪府の堺市に住んでいた。40歳を過ぎてから目が見えなくなったが、介助の支援があることも知らず、48歳になって、すまいるの存在を知った。両親と3人暮らしで、親とは手のひらに文字を書いてコミュニケーション。ほとんど通じなかった。グループホームの開所を知り、入居を申し込んだ。ここでは触手話でいろいろな人との話ができ、食事も美味しく、生活を大いに楽しんでいる。

**山崎初枝さん（58）**

3歳のときに聴力を失い、小学5年頃、夜に目が見えにくくなり、30代に視力がぐんと低下した。3月までであんまの勉強をした。グループホームのことは、全国盲ろう者協会発信の情報を友人から教えてもらい、入居を申し込んだ。部屋でネットが使え、いろいろな情報が得られる。昼は事業所に通い、夜はホームで生活するため生活リズムが作れるので入居して良かったと思っている。

**すまいるの連絡先**

大阪市天王寺区小橋町2－12
上本町NEXTAGE 7F
電　話：06－6776－2000
FAX：06－6776－2012
Eメール：info@db-smile.jp